

■殺虫剤：農業用

ネオニコチノイド系

ベストガード®粒剤

登録番号：19103

毒性：－

消防法：－

有効年限：4年

成分 ニテンピラム……1.0%
物理的・化学的性状 淡褐色細粒

包装：3kg×6

◆特長

○ネオニコチノイド系殺虫剤で浸透移行性に優れるので、植穴処理・土壌混和・株元処理などで使用でき、省力化が可能です。

◆適用と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ニテンピラムを含む農薬の総使用回数	
稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類	3～4kg/10a	収穫14日前 まで	4回 以内	散布	4回以内	
	カメムシ類	4kg/10a					
ばれいしょ	アブラムシ類	3kg/10a	植付時	1回	植溝処理 土壌混和	5回以内 (植付時までの処理 は1回以内、植付後 は4回以内)	
きゅうり	コナジラミ類 アブラムシ類 アザミウマ類	5g/培土 ϕ	は種時 鉢上げ時		育苗培土混和	4回以内 (定植時までの処理 は1回以内、水溶剤 の散布は3回以内)	
	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	育苗期		株元処理		
	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	1～2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和		
カリフラワー	アブラムシ類 アザミウマ類	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌 約1.5～4 ϕ) 当り50g	育苗期後半		1回	散布	5回以内 (育苗期の散布 は1回以内、定 植時の土壌混和 は1回以内、水 溶剤の散布は3 回以内)
	アブラムシ類	1g/株	定植時			植穴処理 土壌混和	
ブロッコリー	アブラムシ類 アザミウマ類	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌 約1.5～4 ϕ) 当り50g	育苗期後半	1回	散布		
		1g/株	定植時		植穴処理 土壌混和		

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ニテンピラムを含む農薬の総使用回数
すい か	アブラムシ類 コナジラミ類	1 g / 株	育苗期	1回	株元処理	4回以内 (育苗期の株元処理 及び定植時の土壌 混和は合計1回以 内、散布は3回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	1～2 g / 株	定植時		植穴処理 土壌混和	
なす	アブラムシ類	5 g / 培土 0	は種時又は 鉢上げ時		育苗培土混和	4回以内 (定植時までの処理 は1回以内、株元散 布及び水溶剤の散 布は合計3回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類	1 g / 株	育苗期		株元処理	
	アブラムシ類 コナジラミ類	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌 約1.5～4 0) 当り50 g	育苗期後半		散布	
	アブラムシ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	1～2 g / 株	定植時	植穴処理 土壌混和		
	アブラムシ類	2 g / 株	収穫前日 まで	3回 以内	生育期 株元散布	
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	5 g / 培土 0	は種時又は 鉢上げ時	1回	育苗培土混和	4回以内 (定植時までの処理 は1回以内、水溶剤 の散布は3回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類	1 g / 株 1～2 g / 株	育苗期		株元処理	
	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌 約1.5～4 0) 当り50 g	育苗期後半		散布	
	アブラムシ類 コナジラミ類	1～2 g / 株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類	2 g / 株				
ピーマン ししとう	アブラムシ類 コナジラミ類	1 g / 株	育苗期	1回	株元処理	4回以内 (育苗期の株元処理 及び定植時の土壌 混和は合計1回以 内、散布は3回以内)
	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1～2 g / 株	定植時		植穴処理 土壌混和	
メロン	アブラムシ類 コナジラミ類	1 g / 株	育苗期	1回	株元処理	4回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内、散布は 3回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	1～2 g / 株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	アブラムシ類	1 g / 株				
いちご	アブラムシ類	1 g / 株			4回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内、散布は 3回以内)	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ニテンピラムを含む農薬の総使用回数
ねぎ	ネギアザミウマ	6 kg/10 a	は種時	1回	作条処理 土壌混和	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、株元処理及び水溶剤の散布は合計3回以内)
		セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌 約3~4ℓ) 当り50 g	定植当日		散布	
	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	6 kg/10 a	定植時	3回 以内	植溝処理 土壌混和	
			収穫前日 まで		株元処理	
	ネギハモグリバエ ネギアザミウマ	5 g / 培土 ℓ	は種時	育苗培土混和		
わけぎ あさつき	ネギハモグリバエ	6 kg/10 a	定植時	1回	植溝処理 土壌混和	1回
しゅんぎく	アブラムシ類 コナジラミ類 マメハモグリバエ	9 kg/10 a	収穫3日前 まで	1回	生育期 株元処理	2回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内、株元処 理は1回以内)
レタス	ナモグリバエ	10 g / 培土 ℓ 0.5~1 g / 株	は種時	1回	育苗培土混和 株元処理	4回以内 (定植時までの処理 は1回以内、水溶剤 の散布は3回以内)
	アブラムシ類	セル成型育苗トレイ 1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌 約1.5~4 ℓ) 当り50 g	育苗期後半		散布	
食用ぎく	アブラムシ類 ミカンキロアザミウマ マメハモグリバエ	2 g / 株	収穫前日 まで	2回 以内	生育期 株元散布	4回以内 (粒剤の散布は2回 以内、水溶剤の散布 は2回以内)
すいぜんじな	アブラムシ類 アザミウマ類 ハモグリバエ類	9 kg/10 a	定植時	1回	植溝処理 土壌混和	2回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内、株元処 理は1回以内)
			収穫3日前 まで		生育期 株元処理	
ズッキーニ	アザミウマ類	1~2 g / 株	定植時	1回	植穴処理 土壌混和	1回
うり類 (漬物用)	アブラムシ類					
きく	ミカンキロアザミウマ マメハモグリバエ	2 g / 株	発生初期	4回 以内	生育期 株元散布	4回以内
	アブラムシ類	1~2 g / 株				
きんせんか	マメハモグリバエ	2 g / 株	1~2 g / 株	1回	1回	1回
	アブラムシ類	1~2 g / 株				

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ニテンピラムを含む農薬の総使用回数
花き類・観葉植物 (きく、きんせんかを除く)	アブラムシ類	3～5 g/培土ℓ	定植前	1回	培土混和	4回以内
		1～2 g/株	発生初期	4回以内	生育期 株元散布	

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1) 水稻に使用する場合は、3 cm前後の湛水とし、田面に均一に散布し散布後4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しはしないこと。
- (2) 漏水のはげしい水田では使用しないこと。
- (3) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (4) マルハナバチを利用する場合、本剤使用後20日目ごろより後に導入すること。ただし、影響日数は環境条件により多少変動する場合がありますので注意すること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
- (6) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (7) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

◆安全使用上の注意

散布の際は農薬用マスクなどを着用すること。
作業後はうがいをすること。

◆魚毒性

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。